



TITLE:

図書館の動き・京都大学図書館システムの在り方検討委員会を設置・古文献資料専門委員会を設置・宮崎滞欧採蒐コレクションが寄贈される・索引誌SCI等のオンライン版Web of Science導入・附属図書館に自動貸出返却装置が入る・新図書館利用証の交付・『2000年京都電子図書館国際会議報告書』が刊行（日本語セッション）

AUTHOR(S):

CITATION:

図書館の動き・京都大学図書館システムの在り方検討委員会を設置・古文献資料専門委員会を設置・宮崎滞欧採蒐コレクションが寄贈される・索引誌SCI等のオンライン版Web of Science導入・附属図書館に自動貸出返却装置が入る・新図書館利用証の交付・『2000年京都電子図書館国際会議報告書』が刊行（日本語セッション）. 静脩 2001, 37(4): 19-20

ISSUE DATE:

2001-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37613>

RIGHT:

昨今日本語の危機が叫ばれて久しい。昨年あるニュース番組で、森首相の発言に対して「お灸を据える」という言葉をあてたことに鍼灸関係者が反発し、治療行為以外に使ってくれるなとマスコミ各社に要望したという一幕が取り上げられていた。³

時を遡ること昭和22年元旦、時の吉田茂首相がラジオ放送で労働組合の闘争を評して「不逞の輩」のすることと非難、大変な物議を醸した。その時、新村出先生は氏独特の関心の寄せ方を示している。それは『老人随筆・不逞録』と題するノートになって残っているが、それによると元旦以降の新聞の関係記事の切抜が貼られ、ところどころ「ふてい」の部分に朱筆がふられていたという。

新村先生のこだわりは「不逞」を30数種類の辞書、古今の国語辞典漢和辞典はもとより、和英・和仏・和独等に及んだという。新村先生なら「お灸を据える」という表現にいかなる反応を示されたであろうか、そんなことを想像してみただけでも楽しい。

余談になるが、私の母校愛知県立大学附属図書館には息子新村猛先生が寄贈された図書をもとにした新村文庫がある。そこで育った人間が、縁あって京都大学に来て、父君新村出先生宛の絵葉書を発見したということにまた不思議なものを感じる。

(おくやま ともやす：附属図書館遡及入力室)

1 『写楽』22号(3巻3号)：1982 515-529pp.

2 『雁』：豊田四郎監督、1953

3 筒井康隆 朝日新聞2001/2/5 21面

●●●●●●●●●●●●●●●● 図書館の動き ●●●●●●●●●●●●●●●●

京都大学図書館システムの在り方検討委員会を設置

平成13年1月30日に開かれた商議会において「京都大学図書館システムの在り方に関する検討委員会」が設置されました。第1回委員会は2月22日行われました。

大学改革の一環として、京都大学の図書館システムの見直しを図る必要が生じたことから、この委員会では、附属図書館と各部局図書館・室の機能、連携の在り方等について検討し、本年7月までに結論を出す予定です。

古文献資料専門委員会を設置

本学附属図書館は、創立時から貴重な古文献資料を積極的な寄贈依頼等によって収集に努めてきており、所蔵する古文献資料群は、国内の図書館の中でも質量ともに極めて優れた研究資料となっています。最近においても一般市民から貴重なコレクションの寄贈があるなど、本学附属図書館に対する古文献資料の保存への期待も大きいものがあります。附属図書館としてもこの期待に応えるため、本学が収集する貴重な古文献資料の収集計画、所蔵する古文献資料の管理、保存、目録作成、公開等の在り方についての検討を促進し、所蔵する古文献資料に関して更なる研究が促進される必要があります。このことから、平成13年1月30日開催の附属図書館商議会において「古文献資料専門委員会」を設置し、委員12名が指名されました。同専門委員会は、古文献資料に関し大学としての収集計画の立案、所蔵古文献資料の管理、運用、電子化、修復、書誌作成等のあり方について検討します。また、貴重書の指定審査及び指定解除もこの委員会のもとで行なうこととなりました。

宮崎滞欧採蒐コレクションが寄贈される

宮崎市定博士（1901 - 1995）旧蔵の洋書177冊、地図90点が長女の宮崎和枝様の申し出により、京都大学附属図書館へ寄贈されることになり、平成13年2月5日に搬入されました。今回は昨年の「大塚京都図コレクション」に続いて、貴重な西洋古版地図等が寄贈されたことになります。このコレクションの中には、博士がヨーロッパで蒐集された1561年刊行のヴェネチア版『ブトレミー地図帳』や1550年に木版筆彩された『ミュンスターの新世界図』などが含まれています。

索引誌SCI等のオンライン版Web of Science導入

本学において、いよいよ Web of Science が使えることになりました。これは、索引誌として刊行されている Science Citation Index , Social Science Citation Index , Arts & Humanities Citation Index のオンライン版で、その機能の高さと使い勝手の良さから導入が待望されていたものです。このたび学長裁量経費の措置を受けて導入が実現いたしました。

すでにご存じの通り、Citation Index（引用索引）は単に論文を検索するものではなく、引用関係を通して論文と論文とのつながりを調査するためのツールです。これにより、研究の流れの把握や、特定の論文のインパクトを評価するなど、他にはない機能を持っています。Web of Science は、このような高度な機能を、ブラウザを通して簡単な操作で利用できるようにしたもので、まさに学術研究に必須のツールと言って過言ではありません。

Web of Science は、皆様の研究活動に寄与するものと確信しております。大いにご活用くださいますようお願いいたします。

なお今回の導入は、学長裁量経費による試験的な導入です。しかし本学にとって、Web of Science の重要性は計りしれません。附属図書館といたしましては、来年度以降も継続して使用していただけるよう努力してまいりたいと考えております。皆様方のご支持ご協力を賜りますようお願いいたします。（本誌 6 - 10頁 吉田潤一『Web of Science 文献検索のIT革命』参照）

附属図書館に自動貸出返却装置が入る

平成13年4月6日より、附属図書館メインカウンターに自動貸出返却装置2台が設置されます。これにより利用者がセルフサービスで利用証と図書を装置にセットすることにより貸出返却を行うことができます。

新図書館利用証の交付

平成13年4月6日より図書館利用証がプラスチック製磁気カードに変わります。これに伴い新利用証の申請・交付を玄関入り口の受付カウンターで行います。

なお、教職員（常勤）、学部生、院生の方は、新たに交付されます教職員証・学生証が、自動的に新利用証になります。

『2000年京都電子図書館国際会議報告書』が刊行（日本語セッション）

平成12年11月13日から17日にかけて開かれた京都大学、英国図書館、米国国立科学財団主催の「京都電子図書館国際会議」の会議録が3月に刊行されます。

この会議録は『2000年京都電子図書館国際会議報告集』（日本語セッション）として日本図書館協会から発行、発売されます。なお、英語版はIEEE Computer Society Pressから刊行される予定です。